

おばあちゃんのふしぎなメガネ

文：小川結希・田之下雅之 絵：サイトウマサミツ

よんであげるなら 5才から
じぶんでよむなら 小学校 2年生から



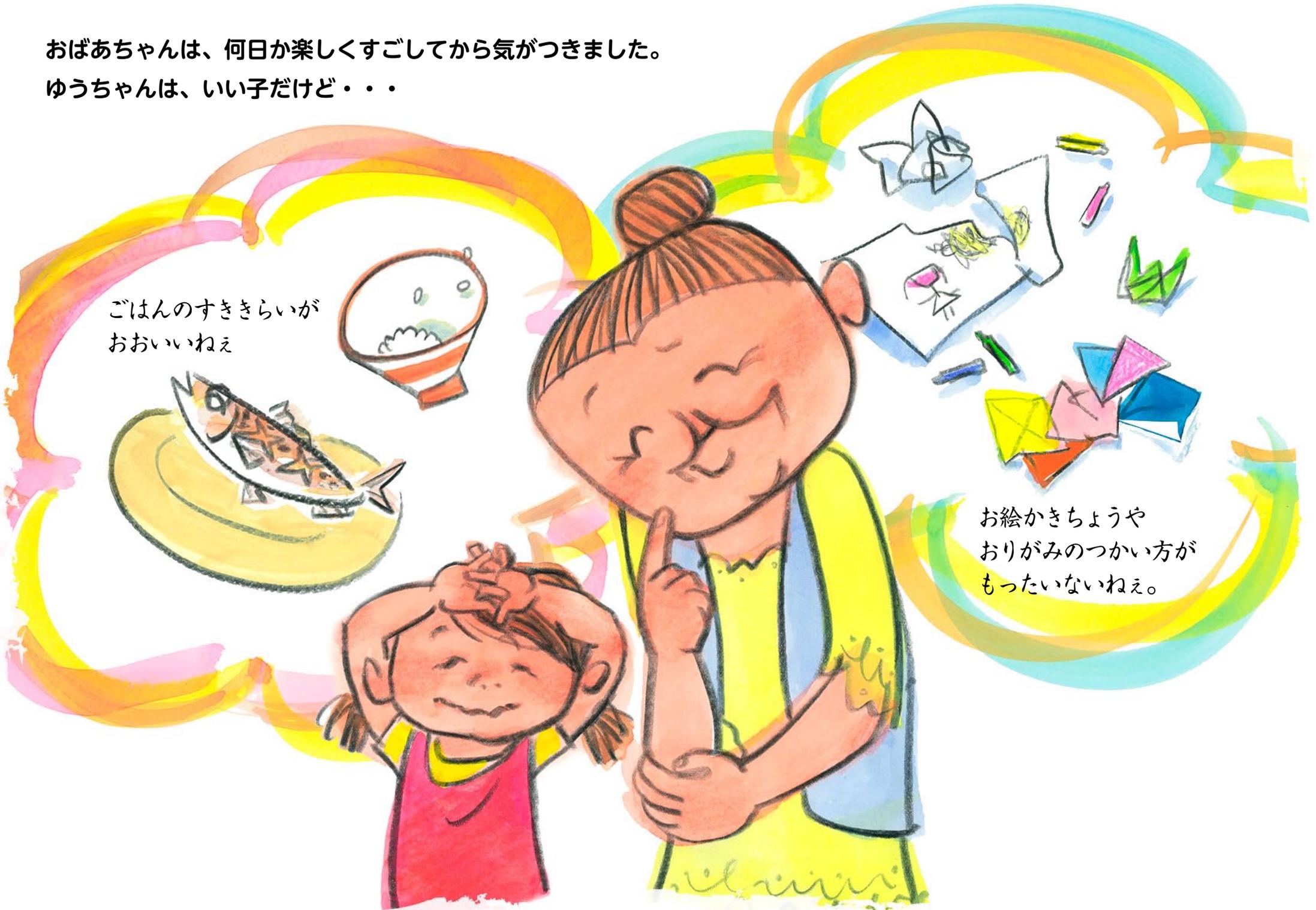
夏休みのある日、いなかのおばあちゃんが
ゆうちゃんの家へあそびにきました。
おばあちゃんがすんでいるところは、
たくさんの田んぼや、はたけ、山や川があり、
いろんな生きものがあります。



おばあちゃんは、何日か楽しくすごしてから気がつきました。
ゆうちゃんは、いい子だけど・・・

ごはんのすききらいが
おいしいねえ

お絵かきちょうや
おりがみのつかい方が
もったいないねえ。



おばあちゃんは、「よしっ」と手をうって、
カバンから、メガネを一つとり出しました。
そして、夕ごはんのときに、ゆうちゃんの顔にメガネをかけると、
『イチヨンポンポン、お米と、だいずは、な～いない』と、
ふしぎなじゅもんをとなえました。
メガネは、顔にくっついてとることができません。
すると、ぽんっと音がして・・・

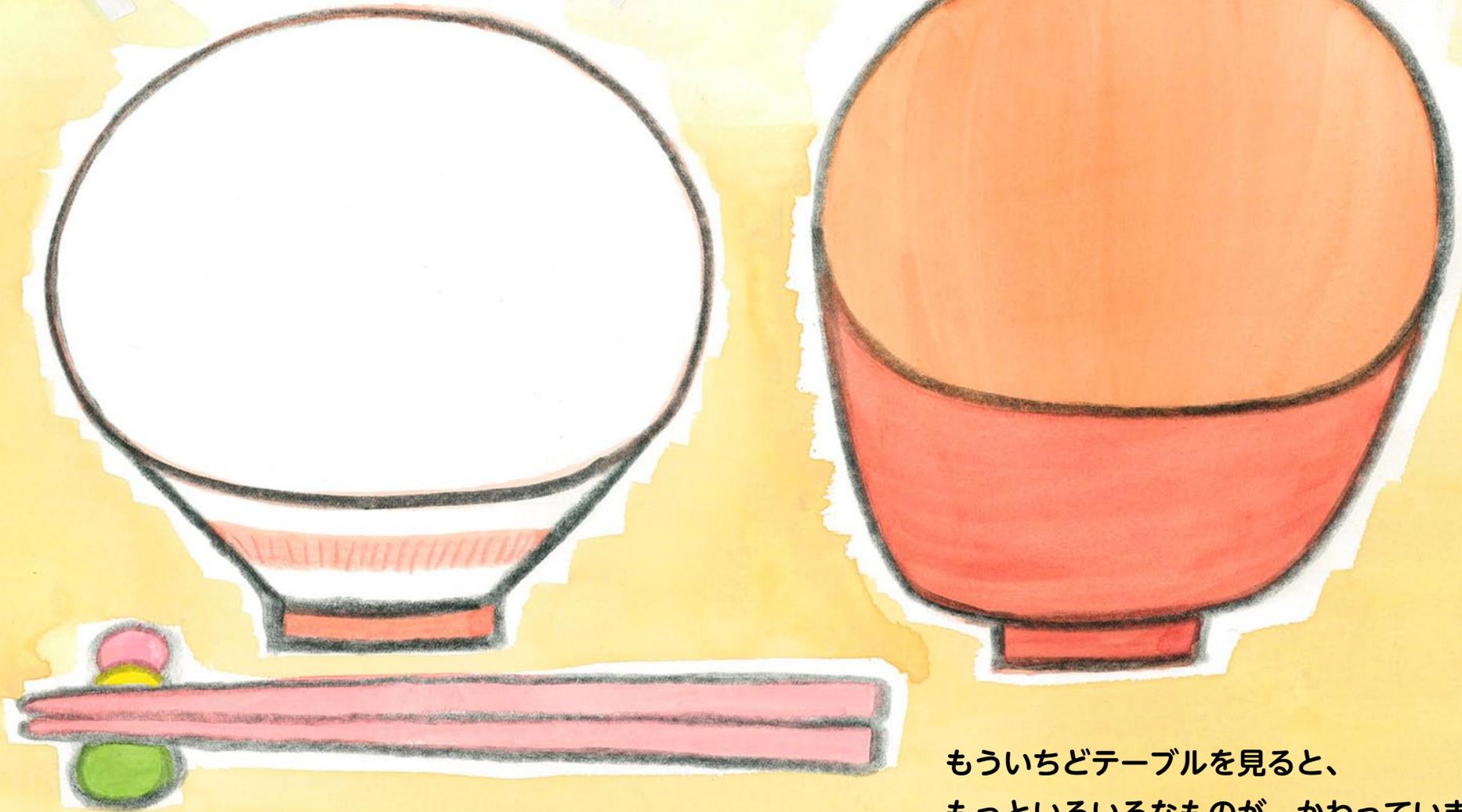


「あれ〜!？」

目の前の白いごはんとおみそしるがなくなっていました。

「これがどんなメガネか、わかったかい？」と

おばあちゃんは、ニヤリとわらいました。



もういちどテーブルを見ると、
もっといろいろなものが、かわっていました。



お米と、だいずがなくなると、
たくさんのものがなくなりました。
ゆうちゃんは、お魚がきれいなので、
夕ごはんは、なにも食べられませんでした。

つぎの日の朝、おなかがぐ〜ぐ〜鳴っておきると、
朝ごはんは、大すきなものばかりでした。



「わ〜い♪おいしそう♪」 そのとき、横で
「イッチョンポンポン、牛と、ブタと、ニワトリは、な〜いない」と
おばあちゃんが、じゅもんをとなえました。・・・ぽんっ





またごはんを食べられず、ゆうちゃんは、もうおなかペコペコ。
でもお兄ちゃんとあそびはじめたら、そんなことはすっかりわすれてしまいました。
そこへ、おばあちゃんがやってきて、いいました。
『イッチョンポンポン、木は、な～いない』・・・ぽんっ
「あれれ～!？」







「どうしよう。みんな、なくなっちゃったよお。」

ゆうちゃんは、泣きだしました。

「なくなるとかなしいよね。だいじょうぶだよ、

時間がたてば、メガネのききめは切れるからね。」と、

おばあちゃんは、聞こえないくらいの小さなこえで言いました。

しばらくすると、お母さんがおつかいをたのみにきました。

ゆうちゃんは、何でも買える

スーパーマーケットへ行くのが、だいすきでした。

「さあ、何から買おうかなあ」
ゆうちゃんは、もう元気です。
すると、おばあちゃんがニヤリとわらって、またいいました。
『イッチョンポンポン、しょくぶつは、な～いない！
虫も、海の生きものも、どうぶつも、鳥も
な～いない!』・・・ぽんっ



あっという間に、
スーパーマーケットは
すごいことになってしまいました。



おみせのしょうひんがなくなり、
み～んな、ようふくをきていません。
ゆうちゃんは、もうびっくり！
けっきょく、おつかいでたのまれたものを
買うことができませんでした。



家に帰ると、いいにおいがしています。
お母さんが、ごはんをつくってしてくれたのです。
おばあちゃんは、もうじゅもんをとなえなかったので、
やっとごはんを食べることができました。
おいしくて、うれしくて、きれいだった魚も食べました。



ゆうちゃんは、もうしょくぶつや生きものがなくなるのは、こわいと思いました。
だから、そうならないようにするために、さくせんを考え、みんなにはっぴょうしました。
おばあちゃんは「うんうん、ステキなさくせんだね。」と、うれしそう。
すると、ゆうちゃんの顔から、メガネがするりととれました。



のこさず食べる。



べんきょうする。



ものを大切につかう。



「そのメガネはあげるよ。またつかってごらん。
それは、生きもののためになるからね。」
ゆうちゃんは、「うん!」と、にっこりうなずきました。
あんしんしたおばあちゃんは、つぎの日、
いなかの家へかえっていきました。

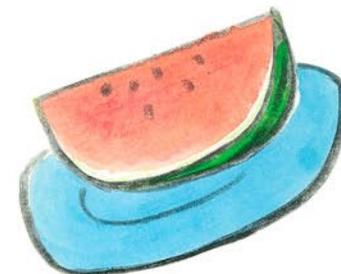
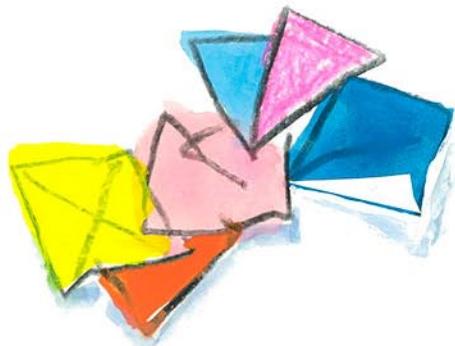
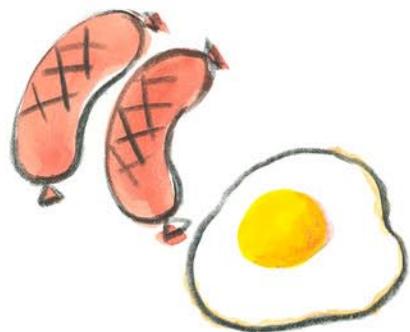




みなさんも、このメガネをかけてみませんか？
ごはんのとき、デパートに行ったとき、へやの中で、
じゅもんをとなえてみてくださいね。

じゅもんには、いろいろあります。
たとえば、魚・虫・こむぎ・せきゆ・・・ルールは、しぜんのものです。
じゅもんをとなえたら、なにがきえるでしょう？

「なにが、なぜ、きえるのか」
それをお家の人や、お友だちと考えてみてくださいね。



この絵本を作った人

作 _____

小川 結希（おがわ ゆうき）

東京都福生市に生まれ、幼少期は木登り、木の実や草を食べ回る、生きものは何でもつかむ・・・と、自然の中を駆け巡る日々を過ごす。大学時代に素敵なインタープリター（自然案内人）に出会い、インタープリターになることを決める。そして、大学卒業後、自然教育研究センターに入社し、自然公園で念願のインタープリターとして活動できるようになる。現在も、日々嬉しく楽しいインタープリター人生を堪能中。絵本は子どもの頃から大好きで、しょっちゅう本屋さんに行っては、「チェック→惚れる→ついつい買い」を繰り返すほど・・・。

田之下 雅之（たのした まさゆき）

富山県富山市生まれ。幼少より自然の中で遊ぶことが大好きで、大学時代は小学生対象のキャンプスタッフに明け暮れる日々を過ごす。卒業後は環境系企画会社に就職。企画プロデュースのイロハを学び、3年後の2000年に独立。現在、株式会社Tクラフト・プラスの代表として、「子ども」「環境」「創造」をテーマに、企業や自治体等の様々な子どもイベントの企画運営、体験プログラムの開発などに携わる。2歳になる息子と一緒に、いろんな絵本を楽しむのが趣味。

絵 _____

サイトウマサミツ

多摩美術大学グラフィックデザイン専攻卒業。
フリーのイラストレーター。千葉県のパラダイムに面したのどかな町に生まれ育つ。絵本の仕事に『はっぱはらっぱらはっぱ』『はだしになっちゃえ』共に福音館書店“ちいさなかがくのとも”等。『はだしに・・・』の英語版『Beach Feet』はアメリカで出版され、好評を得ている。

企画委員（50音順）

小川 結希 （株式会社自然教育研究センター）
京極 徹 （公益社団法人日本環境教育フォーラム）
小堀 武信 （公益社団法人日本環境教育フォーラム）
高松 敬委子 （公益社団法人日本環境教育フォーラム）
田之下 雅之 （株式会社Tクラフト・プラス）
森岡 寛貴 （株式会社ジオングラフィック）

「おばあちゃんのふしぎなメガネ」は、公益社団法人日本環境教育フォーラムが事業運営、とりまとめを行い、企画委員でストーリーや作品内容を検討し、データ製作は株式会社ジオングラフィックが担当致しました。

おばあちゃんのふしぎなメガネ

企画・制作：公益社団法人日本環境教育フォーラム

文：小川結希・田之下雅之

絵：サイトウマサミツ

デザイン：株式会社ジオングラフィック

©公益社団法人日本環境教育フォーラム

※この絵本は、独立行政法人環境再生保全機構
「地球環境基金」より助成をいただいています。

生態系サービスの経済的価値

私たちの暮らしに欠かせない空気や水、食料などは、地球上の生きものたちの恵みによってもたらされ、それらは『生態系サービス』と呼ばれています。この生態系サービスの経済的価値はお金で換算すると、一体どのくらいになるのでしょうか？

地球全体の生態系サービスの価格は？

地球全体の生態系サービスの経済価値をお金で換算すると年間平均で3,300兆円！世界人口を約70億人として、1人あたり年間47万円分ものサービスを自然（生態系）から無料で受けている計算になります。

3,300兆円!!



昆虫が花粉を運ぶと・・・

ハチなどの昆虫が花粉を運び、受粉により、果物、野菜、コーヒー、カカオ、スパイスなどを成長させる働きのお金を換算すると、その額はなんと年間24兆円にもなります。（1人あたり年間3,400円のサービス）

24兆円!!



森林破壊が進むといくら損をするの？

森林破壊が進めば、そこにある生態系サービスも失われます、このままのペースでいくと、2050年には約200～500兆円分もの生態系サービスが失われると予測されています。

2050年
200～
500兆円!!



自然を護るといくら得するの？

地球全体の自然（生態系）を今後、毎年約3.6兆円を使って保全していけば、二酸化炭素の吸収や洪水防止、飲料水などの面で年間約400兆円もの生態系サービスを生み出すことができます。

費用3.6兆円
価値400兆円!!



今後の予定

この絵本は、3年計画で「生物多様性と私達の暮らし」をテーマに作成されています。1年目は「わたしはなあ～に」で「生物はみんな同じく生きている」を、2年目は本作「おばあちゃんのふしぎなメガネ」で「人間は自然の恵みで生かされている」をテーマに作成しました。3年目は「生物多様性に、君も楽しく取り組むことができる」と、徐々に深いテーマを扱い、生物多様性について考えながら、普段の暮らしを振り返ります。

1年目

生物は
みんな同じく
生きている

2年目

人間は
自然の恵みで
生かされている

3年目

生物多様性に、
君も楽しく取り組む
ことができる

編集責任

2014年3月

公益社団法人日本環境教育フォーラム 小堀 武信

参考・引用

- ・農林水産省「食料需給表」
<http://www.maff.go.jp/j/zyukyu/fbs/>
- ・公益財団法人 群馬畜産協会
<http://www.chikusankyokai.or.jp/>
- ・農林水産庁「木材自給率」
http://www.maff.go.jp/j/tokei/kouhyou/mokuzai_zyukyu/index.html
- ・「消費者庁」消費者政策
http://www.caa.go.jp/adjustments/index_9.html
- ・環境省「COP10・11の成果と愛知目標」
http://www.biodic.go.jp/biodiversity/about/aichi_targets/files/2011_2020_decade_on_biodiversity.pdf

ここもよんでみよう

米とだいた

わたしたちがいつも食べているごはんや、お正月に食べるおもちは『お米』から。とうふやえだまめ、おみそ、しょうゆは『だいた』からつくられます。これらのしょくざいは、日本人がむかしから食べきたもので、わたしたちの食生活をささえてくれています。まさに日本になくてはならない食べものですね！



もどる

ここもよんでみよう

わたしたちとお肉

わたしたちが食べている肉は、牛、ぶた、にわとりなどのお肉です。1年間に1人あたりが食べる肉は137kg。ハンバーグ(100g)でたとえると、やく1,370こ分!のハンバーグを1年間に食べている計算になります。わたしたちは、たくさんのどうぶつのおかげにささえられて生きているんですね。



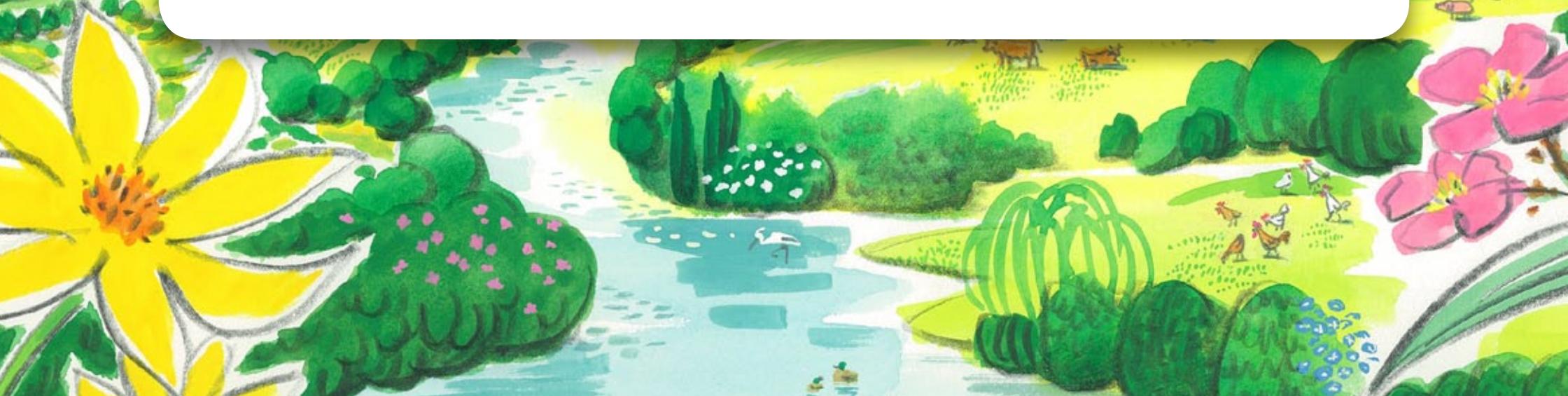
もどる

ここもよんでみよう

木とくらし

つくえ、本、紙。むかしも今も、わたしたちは、たくさん木を使っています。しかしその木のほとんどは外国からやってきます。日本にも森がたくさんありますが、そのほとんどがつかわれていません。切りすぎはいけませんが、これから日本の木もつかっていくことが大切です。

もどる



ここもよんでみよう

虫が支える私たちの暮らし

トマトやじゃがいも、だいこんなどのやさい、リンゴ、イチゴ、スイカ、メロンなどのくだものも、虫による受粉^{じゅふん}によって実^みがなります。おいしいやさいやくだものを食べられるのも虫のおかげ。そして虫だけでなく、鳥や魚、すべての生きものたちが、いてくれるおかげでわたしたちは生きることが出来ます。



もどる

ここもよんでみよう

生きものたちのめぐみで生きている

やさいも、くだものも、ふくも、したぎも、
くつも、わたしたちのまわりのものは、もと
をたどると、すべて地球の生きものたちがつ
くったものです。それを工場などでカタチを
かえて、スーパーやデパートで売っています。
地球の生きものたちが、わたしたちのくらし
をささえてくれているのです。



もどる

ここもよんでみよう

のこさず食べよう!

わたしたちの食べものは、たくさんの生きもののつながりで、つくられています。しかしわたしたちの家で、まだ食べられるのにすてられてしまう食べものは、1年間で一人当たりやく15kg。茶わん1ぱいのごはんを150gとすると、100ぱい分をすてている計算になります。できるかぎり、のこさず、おいしく食べたいですね。



もどる